

# 人工透析医療の新しい試み 厚木の 青年医師による挑戦

高野クリニック

くぬナビ

vol.6-3

高野クリニック(厚木市旭町、高野秀雄院長、046・227・1177)は、本厚木駅から徒歩5分にある糖尿病・腎臓疾患を中心に診療する内科医院である。高野院長は、東海大学病院腎内分泌代謝内科に所属、同院高度救命救急センターに出向後、機関病院で人工透析センター長を務め、現在に至っている。

の家族の身体的、経済的負担は大きい」と高野院長は語る。

現在、高野院長が力を入れているのが、人工透析医療の新しい連携確立である。人工透析とは、腎臓機能の代替となる人工腎臓のことであり、末期腎不全となった患者への医療で、自分の腎臓機能では不十分な老廃物の排除や体内水分の調整を行い、血圧の調整をもつかさどるものだが、生命維持の為、生涯継続が必要な医療である。

そのための、高野院長が企画立案しているのが「人工透析見守り支援システム」である。このシステムは、テレビ電話による会議機能と、透析周辺機器や患者の採血、画像、服薬内容等の医療情報をリアルタイムで管理、情報交換するシステムであり、離れた場所にいる透析患者と透析医師をオンラインネットワークで結び、安心して透析治療が受けられるものである。

そのような透析医療には、数々の問題点があるが、中でも医師不足と患者の高齢化、それに伴う寝たきり患者の増加があげられる。「地方では担当医師不在の施設がある。寝たきりになれば通院が困難となり、患者さんは勿論、付添い

の実証事業では、通常のクリニック診療の傍ら、透析医師不在であった大島医療センターのスタッフと休憩時間に定期会議を月2回、また緊急時の医療応対を行った。透析医師の負担増に対する懸念もあったが、「異常時の緊急コールはさほどなく、大した負担にはなりません。むしろ、患者さんやスタッフから安心感への評価をいただくことで張り合いになります」。

透析医師不在の病院や、既存の居宅型老人施設、賃貸用不動産の入居状況の悪化が問題である施設、これから建築予定の賃貸施設等において、このシステムを導入することによって、患者や家族の負担軽減につながったり、賃貸用不動産の大きな付加価値として施設運営の良好な経営にも寄与するものと考えられる。

お問い合わせは管理会社の「テレメディック」まで。

(<http://www.telmedic.co.jp/>)

